

# 1. 文化財の保護と活用

—市民や来訪者が橿原市の歴史・文化の価値を学び、体感できるまち—



## 基本方針

市民や来訪者が、橿原市の歴史・文化の価値を学び、体感できるまちを目指します。

そのために、修理や修復が必要な指定文化財については、所有者や管理者に理解を求めて、価値を再生します。また、史跡については、整備や活用を進め、市民や来訪者の愛護及び保護への意識を高めます。

そして、市民とともに、市内に点在する文化遺産を、まちづくりの資源として活用します。

## 現状と課題

- 市民や来訪者が、市内に存在する貴重な文化財について理解を深めるために、保存や整備に取り組むとともに、埋蔵文化財の発掘調査とその成果等の情報を、積極的に発信することが求められています。
- ユネスコ世界遺産委員会が世界遺産の新規登録を抑制する施策をとっているため、関係機関の協力を得ながら、登録の推進と国際的な理解を得るための情報発信が特に求められています。
- 特別史跡藤原宮跡については、国が策定した「特別史跡藤原宮跡整備基本構想」に基づく整備が早期に実施され、国営公園となるよう働きかけることが求められています。
- 周知の遺跡を開発するに際し、発掘調査が必要とされる場合は、開発事業者に理解と協力を求め、発掘調査を実施しています。今後は、発掘調査の成果を報告書にまとめて公表するとともに、後世に伝えていくことが求められています。
- 文化遺産は市内に点在しているため、遺産の周遊道路や案内板の整備が求められています。
- 史跡は、市民や来訪者が学び、交流する場として活用するため、公有化して整備を行うことが求められています。

## 施策指標

指標名	前期目標	実績値			目標値
	H24	H21	H22	H23	H29
特別史跡藤原宮跡の国有化	44.9ha (72.0%)	44.8h (71.8%)	46.3ha (53.6%)*	47.7ha (55.1%)	54.9ha (63.5%)
史跡丸山古墳の公有化	72,142㎡ (80.0%)	60,506㎡ (71.9%)	61,050㎡ (72.5%)	—	73,946㎡ (82.0%)
千塚資料館入館者	—	2,594人	2,278人	2,376人	10,000人

\*平成22年度に指定範囲を拡大したため、国有化の割合(%)が相対的に減少しています。

## 今後の取組

### ① 文化財の調査と保護の推進

周知の遺跡の開発に際し、発掘調査が必要となる場合は、開発事業者に発掘調査の理解と協力を求めます。そして、発掘調査で記録した出土遺構や遺物を整理して、調査成果を市民へ公表するとともに、後世に伝えます。

史跡は、公有化して整備、活用を進めます。

重要伝統的建造物群保存地区<sup>(\*)</sup>である今井町では、これまで受け継がれてきた町並みを後世に伝えていきます。そして、今井町の象徴的建造物である称念寺の保存修理を進め、往時の姿に修復します。

### ② 世界文化遺産登録の推進

「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録に向けて、今後、適切な保存管理と活用を推進が必要となるため、地域における総合的な文化財保護の取組を充実させ、文化財が国際的に評価されるよう情報を発信します。また、関係省庁や自治体と連携を図りながら、早期の本登録を目指します。

地下の文化遺産は、世界遺産登録に不利とされているため、石室を有する古墳は内部見学ができることを前提に整備計画を立て、多言語対応の解説板等の設置、発掘調査の現地説明会等の積極的な公開を進めます。また、文化遺産の魅力を伝えるガイドの育成と知識向上を図り、文化遺産の活用を促進します。



藤原宮跡

## 市民等との役割分担

市民は、千塚資料館が開催する企画展やイベントに企画段階から参加することにより、本市の文化や歴史を学びながら、市と協働して文化財の保護と啓発を推進することが期待されます。

### ③ 文化財の活用推進

千塚資料館は、歴史を体感できる常設展示と、各地の重要文化財が展示可能な博物館に改修するとともに、館内に文化財行政を担う部署を配置し、文化財情報を一元的に発信する拠点施設とします。

史跡新沢千塚古墳群は、都市公園として整備し、歴史学習の体験空間として、多くの人々が訪れ、遊べる・学べる・交流できる場の環境創造を目指します。

史跡丸山古墳は、整備に向け、公有化をより一層進めます。菖蒲池古墳は石室部分のみの史跡指定であるため、指定範囲の拡大を県や国に求めます。公有化が完了した植山古墳は、史跡公園として整備し、公開や活用を目指します。

特別史跡藤原宮跡は、「特別史跡藤原宮跡整備基本構想」に基づき、国に協力し、国有化をより一層推進します。

市内に点在している指定文化財等の文化遺産の周遊路の整備と、多言語に対応した道標・案内板を設置し、観光ルートを創出します。

### ④ 文化財保護の意識高揚

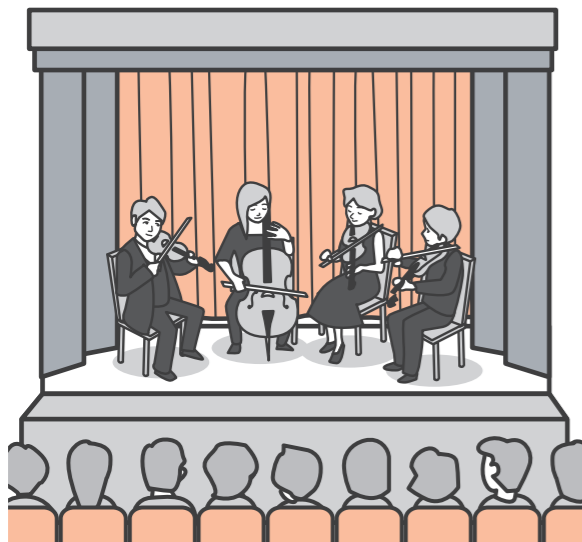
文化財に関する情報を広く発信するとともに、文化財講座や講演会等を開催し、市民が歴史文化と触れ合う場を提供します。

また、指定文化財所有者・管理者を対象に、文化財防火週間に合わせて実施している防火・防災訓練を継続します。

<sup>(\*)</sup>重要伝統的建造物群保存地区：文化財としての建造物を「点」(単体)ではなく「面」(群)で保存しようとするもので、我が国にとってその価値が特に高いものとして、国の選定を受けた地区。今井町は、平成5年に重要伝統的建造物群保存地区として選定されている。

## 2. 文化芸術活動の振興

—優れた芸術や芸能に関心を持ち、理解を深め、次世代へ承継していくまち—



### 基本方針

市民が、優れた芸術や芸能に関心を持つことで、生活が豊かになることを体感できるよう、多様な公演事業を企画、展開するとともに、その定着や継続に向けた支援を行います。

また、市民が芸術や芸能への理解をより深められるよう、参加・発表の場の提供を行い、市民の文化活動に協力するとともに、地域の伝統的な文化芸術に関心を持ち、次世代へ承継できるよう若い世代が直接文化芸術に触れることができる機会を増やします。

### 現状と課題

- かしはら万葉ホールを始めとする文化施設では、文化継承、文化発信及び文化育成の役割を担っており、文化芸術活動に取り組む各種個人・団体が文化芸術に接する機会を設けることに重点的に取り組んでいます。
- これまで文楽等の伝統芸能や市民参加型公演を定期的実施してきたことで、市民の期待と関心を高められた経験をもとに、ニーズを捉えて継続的に実施する手法を取り入れていく必要があります。
- 一つの手法やジャンルにとらわれず、広く文化芸術の情報を発信していくことが求められます。

### 施策指標

指標名	前期目標	実績値			目標値
		H21	H22	H23	
かしはら万葉ホール自主公演事業の参加者数	—	4,310人	4,111人	3,474人	↑ 4,500人
かしはら万葉ホール貸館利用率	45.0%	38.0%	38.7%	42.9%	↑ 50.0%

### 今後の取組

#### ① 市民の文化芸術活動のすそ野の拡大

市民のニーズに合った公演を実施するとともに、定期公演や、複数年続けて同じジャンルの公演を行い、クラシック音楽や伝統芸能等に関心を持つ市民を増やします。

プロのアーティストから直接指導を受ける等、年代を超えて市民が興味を持つ内容を取り入れることで、文化芸術活動へ市民の参加を促します。

文化芸術団体と協力し、親子体験教室を開催する等、若い世代が直接、文化芸術に触れることができる機会を提供します。

また、市内の各種学校との連携を深め、若い世代が文化芸術に親しめる環境を創出します。

#### ② 文化活動の推進

個人または小人数で活動しているグループが、気軽に発表でき、楽しみながら参加できるフェスティバル形式での文化活動の場を提供します。

また、文化芸術活動を実践しようとする市民や団体等に活動機会を提供できるよう、かしはら万葉ホールや市内各施設を文化芸術事業継承のための拠点と位置づけ、市民の文化力の向上を支援します。

#### ③ 文化芸術活動の育成支援

文化芸術活動に取り組む市民や団体が、地域で十分な活動を行うことができるように、広報や助成を行います。



ロビーコンサート



ロビーコンサート

### 市民等との役割分担

市民は、市内で実施される公演等に参加することで、文化芸術を楽しみ、また、より深く文化芸術を理解することが期待されます。

# 3. 国際・地域間交流 の推進

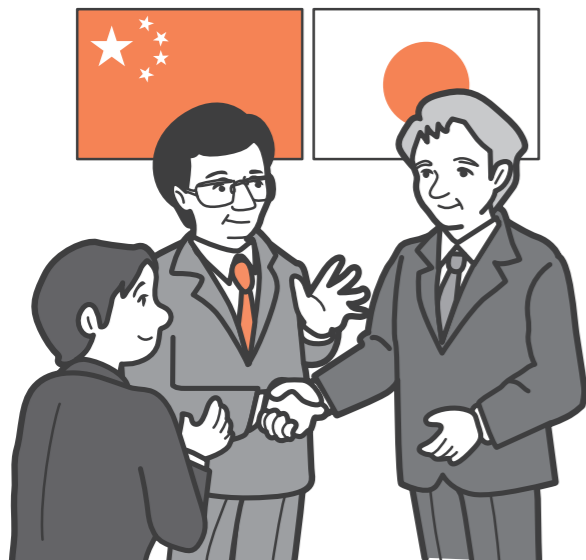
—国内外から多くの人、物、情報等が集まるまち—

## 基本方針

多彩で活発な交流により、様々な分野で国内外から多くの人、物、情報等が集まるまちを目指します。

そのために、市民が異なる文化との交流や体験を通じて多様な文化への理解を深めるとともに、市の個性ある歴史・伝統・文化等を活かして交流を行い、ふるさとの意識を高めます。

また、橿原市の魅力を発信しながら、姉妹都市や友好都市との交流を推進するとともに、歴史的なつながりや縁のある様々な都市との交流を図ります。



## 現状と課題

- 本市は、友好都市中国洛陽市、姉妹都市宮崎市と交流を進めていますが、今後は、市民同士の交流や文化・産業等、多様な分野で地域間の交流を促進することが求められます。
- 姉妹都市宮崎市については、相互の訪問団交流や物産交流、農業交流等、各団体による交流をより魅力的に拡大していくことが課題となっています。
- 友好都市である中国洛陽市からの訪問は、行政関係や医療関係の交流が多いため、今後は中高生や市民間での交流を広めることが特に求められます。
- 市民の中では中国洛陽市が友好都市であるという認知度はあまり高くないため、訪問団交流等の周知が特に求められます。
- 近年、異なる文化や習慣を持つ人々と日常的に交流する機会が増えており、外国籍の市民が地域の一員として生き生きと暮らせるよう、多文化共生の市民意識を醸成する必要があります。
- 近年では、民間での国際交流、特に学校間交流が盛んに行われています。そのような状況を踏まえ、歴史的な繋がりが深い韓国公州市等との今後の交流においては、国際交流に対する市民全体の理解を深め、市民への周知を図るきっかけとして、まず子どもたちの交流を深める必要があります。

## 施策指標

指標名	前期目標	実績値			目標値
	H24	H21	H22	H23	H29
橿原市観光訪問団と宮崎市観光訪問団への参加者数の計	—	104人	79人	92人	100人
海外を訪問した市民訪問団の参加者数と海外からの訪問団参加者数の計	—	19人	65人	15人	60人
「橿原と宮崎の物産展」への出展業者数の計	—	44業者	46業者	36業者	45業者
橿原市、宮崎市間の修学旅行の派遣、受入数	—	0校	0校	0校	5校

## 今後の取組

### 1 中国洛陽市との友好都市交流

友好都市の盟約を締結した洛陽市との交流については、相互の訪問団事業を中心とし、中高生の交流や、市民同士の文化・スポーツ・産業等、様々な分野での交流を推進します。

### 2 多文化共生・人と人との交流の推進

異なる文化を持つ住民間の相互理解を深め、それぞれの良さや特長を活かすことにより、市民生活の質の向上、地域の活性化につなげます。

本市の歴史、文化、人物、経済等の様々な結び付きをきっかけにして、市民・市民団体・企業、そして行政の各分野がテーマや明確な目的を持ち、情報交換や交流を行うことができるような機会の提供に努めます。

また、訪問団の派遣においては、交流の様態や参加者の感想等を広報やホームページ、市政モニター等で公表し、広く市民に周知するとともに、シンポジウムを開催する等、市民全体が交流内容を共有できるような情報発信を進めます。

### 3 宮崎市との訪問団相互派遣による姉妹都市交流の推進

姉妹都市宮崎市との間で訪問団を派遣して、市民レベルでの交流を深めていますが、今後も、団塊の世代

に向けた魅力ある内容になるよう工夫し、応募者の拡大を図ります。

また、宮崎市からの訪問団の受入れについて、橿原市の魅力を宮崎市民に発信する機会と位置づけ、市の史跡や文化を紹介し、市民交流の充実を図ります。

さらに、修学旅行の誘致に努める等、中高生等の若年層の交流の機会の検討を進めます。

### 4 修学旅行での相互交流の活性化

市内の中学校や高等学校と、姉妹都市の宮崎市や友好都市の中国洛陽市、またその他諸外国の学校との交流が活発に行われるよう、情報提供を行う等積極的に支援します。併せて、修学旅行の受入れが促進されるよう、近隣市町村と連携を図りながら受入れ体制を構築します。

### 5 物産展開催事業による地域間交流の推進

毎年、宮崎市において、地場商品の需要開拓と販路拡大や、両市のより一層の友好親善に寄与することを目的に、「姉妹都市橿原と宮崎の物産展」を開催しています。ここ数年の売上額は従来に比べてやや上向きの傾向がみられますが、今後さらにPRを強化し、魅力ある商品を提供していくことにより、売上額の増加に努めるとともに、両市の経済交流の推進を図ります。

## 市民等との役割分担

市民は、国際交流、地域間交流に関心を持ち、その機会を有効に活用するとともに、体験等を市民の間で伝え広めることが期待されます。また、地域における外国籍の市民との触れ合いや交流を通じ、文化への理解を深めることが期待されます。

市観光協会等の関係団体は、行政と連携して国際交流事業、地域間交流事業を展開することが期待されます。

# 4. 歴史文化を活用する観光の振興

—多くの観光客が訪れ、人々の交流による賑わいと活気が生み出されるまち—

## 基本方針

多くの観光客が訪れるとともに、市民が郷土に対する誇りを持ち、もてなしの心で観光客を迎えることで、人々の交流による賑わいと活気が生み出されるまちを目指します。

そのために、豊かな文化遺産と伝統的行事を観光資源として積極的に活用します。個々の観光資源の魅力をさらに引き出すとともに、観光の付加価値が高まるよう、観光資源のネットワーク化を進めます。

また、市民と観光客が本市への観光に関心を持つことができるよう、PRの内容を魅力あるものにするとともに、観光客が本市を訪れる機会がより増えるよう、近隣市町村等、様々な団体と連携を強化します。



## 現状と課題

- 地域住民と協力して、もてなしの心で観光客を迎える体制を整えるとともに、情報発信や広報活動を充実させる必要があります。
- 平成23年に開館したかしはらナビプラザは、催事等をはじめとした観光情報提供の更なる充実と、センター自体の周知が課題となっています。
- 春の神武祭や藤原京イベント等の開催での集客は見込めますが、1年を通して恒常的に来訪者の増加を図る仕掛けづくりが重要な課題となっています。
- 中南和地域には素晴らしい観光資源があるものの、多くの自治体に分かれているため、各観光地が孤立しがちです。今後は、広域的な組織を結成し、文化遺産が豊かな中南和地域の市町村と連携して、一体的な観光施策を展開することが必要です。
- 世界遺産の候補地の一つである大和三山の「天の香具山」を新たな観光資源として発信することが求められており、ソフト・ハード両面の対応が課題となっています。
- 宿泊型観光の取組として、遠方からの集客が見込まれる催事の開催や修学旅行の誘致等が求められています。

## 施策指標

指標名	前期目標	実績値			目標値
	H24	H21	H22	H23	H29
観光客数	4,500千人	4,110千人	4,371千人	3,678千人	4,430千人
宿泊施設の宿泊者数	160千人	108千人	141千人	110千人	140千人
観光ボランティア案内件数	350件	373件	362件	365件	490件

## 今後の取組

### 1 観光客誘致の推進

誘客につながる個性的な観光パンフレットやポスターの作成を進め、民間施設をはじめ様々な場所で積極的に配布し、掲示を行います。その他にも、ホームページ、かしはらナビプラザの大型LEDビジョンを活用した観光情報の発信や、観光協会等と連携した大都市圏等での観光PR等、様々な機会をとらえて本市の情報を発信します。また、本市の観光拠点となる観光交流センターについても、館内イベントの充実等により市内外へのPRを進めます。

近隣市町村をはじめ、吉野地方等をも含めた広域による連携で誘客に取り組み、本市を中心とした回遊型の観光の実現に努めるとともに、藤原宮跡を国内外に更に積極的に紹介し、世界遺産の本登録へ結び付けます。

### 2 伝統的行事等の保存・活用の推進

本市には、県指定文化財の「ほうらんや火祭」をはじめ、地域に根ざした多くの伝統的な行事があります。これらの伝統的行事・祭礼を保存し、文化を伝承するための支援を行うとともに、地域の活性化につながるよう観光資源として活用します。

### 3 観光施設の整備

国内外からの観光客を受け入れる環境の整備が急務であるため、案内看板の多言語対応や、広大な藤原宮跡を魅力的な観光地とするための仕組みづくりを進めます。

天の香具山や古道の観光地化を図るため、ルート案内板を設置するとともに、地域との協力体制を確立します。

### 4 歴史・自然を体感できる観光の推進

古墳、古社・名刹、御陵、町並みをはじめとする歴史遺産や大和三山、飛鳥川、吉野山等に代表される文学性豊かな自然を結び、「ゆっくり・じっくり・楽しめる」観光ルートづくりを近隣の市町村や観光ボランティアガイド等と進めます。また、滞在・体験型の観光企画を民間企業・地元事業者、交通事業者、農業経営者等と連携して展開し、再び訪れたいくなるような、魅力ある観光地づくりを推進します。

### 5 記紀を活用した取組の推進

古事記編纂1300年、平成25年の横大路敷設1400年、平成32年の日本書紀編纂1300年等、全国的な注目を集めやすい歴史的記念年を積極的に活用し、観光客誘致事業を展開します。また、姉妹都市宮崎市をはじめとした、橿原市と歴史的なゆかりのある全国の都市との連携事業を新たに企画し、フォーラムの共同開催や関連パンフレットの作成等を進めます。

### 6 橿原の魅力再発見

市民誰もが橿原の観光名所を知り、それを誇りに思い、楽しむことができるよう、市民向けのバスツアーや、市内の名所を巡るウォークイベント等を実施します。

## 市民等との役割分担

市民は、受け継がれた歴史遺産や行事をより深く知り、郷土に対する誇りを持って、自ら橿原の魅力を広めていくことが期待されます。また、観光客をもてなしの心で温かく迎え入れることや、観光ボランティアガイドや美化活動等の観光客をもてなす活動に参画することが期待されます。